
 書 評

JIS に準拠した FORTRAN 基本コース

大泉充郎監修, 高橋 理他著

オーム社, 1968年9月, 170ページ, 600円

数年前までは, 日本語で書かれたプログラミングの教科書は, 各メーカーのマニュアル類しかなかったが, 近年各種のコンパイラ用語の普及につれて, 数多くのテキストが刊行された。とくに FORTRAN の解説書は, いわゆる「森口文書」をはじめ, 68 年中だけでも 10 冊近く刊行されている。そのうちからとくに本書を書評にとりあげたのは, 多分に「偶然」の事情にすぎない。

この本は主として全国協同利用大型機センターの利用者のために, 一応使用にさしかえない程度までを解説したプログラミングの教科書である。はじめに第 0 章として, 「電子計算機のあらまし」がのべられ, 第 1 章「FORTRAN 語について」で概説があり, 以下第 7 章まで, 順次「数の取扱い」, 「算術式と算術代入文」, 「入出力」, 「制御文」, 「配列」, 「手続き」の順にのべられてある。

コンパイラ言語はもともと計算機の差による互換性とその一つの目的であったと思われるが, いくら規格をもうけても, たとえば, 使用する機械の語長の差にともなう精度の差などはある程度やむをえない。この本は主として N 機 (NEAC 2200-500) によっているが, H 機 (HITAC 5020 E), F 機 (FACOM 230-60) についても, 脚注でその差を解説している。ただし, この本は文法書というよりも, 実用のための手引書であるから, JIS 規格に準拠したとはいうものの, 教育上の配慮や, 既製のコンパイラの制約から, いくつかの事項が取捨されている。たとえば, EQUIVA-

LENCE は省略されているし, 倍長精度, 複素数なども, 第 0 章中に簡単にふれられているだけである。FORMAT も E, F, H, I, X の 5 種だけがのべられている。一方入出力の機器番号は, 入力 5, 印刷 6, パンチが 7 と規定してある。また FORMAT については, JIS 規格に規定されていないが慣例として許されている書式や, 「実情」と相違する JIS 規の部分を, 脚注でことわって変更して解説している所がある。そういった意味で, 「JIS に準拠した」とうたい文句には, 多少異論があるように思われる。

しかし, プログラミングの実用的教科書としては比較的よくまとまっていると思われる。練習問題やしくない例なども, かなり豊富にあげられている。かも, それらは科学技術計算で比較的良好に現われる値計算上の例を多く採用している。

とはいうものの, 正直にいったら一読してみて, 何ものたりない印象もぬぐえない。それはもともとどのような本は, 文章の書き方を解説しているだけであて, 文法だけいくら正しく理解しても, 容易に名文書けないという悩みであるし, また一般論を主として, 特定の計算機 (コンパイラ) に深く立ち入ることを避けたため, JIS に規定されていない誤りの表示などについて, ほとんど解説がなく, プログラミングは誤りさがしのことであるということが (そのよう第 0 章中に書いてはあるが), 徹底していないためもある。しかし, まったくの初心者のための教科に, そのようなことを要求するほうが無理なのかもしれない。

最後に評者の希望として, 最近刊行された FC TRAN 関係書の解説書を何冊か比較検討した総合評が書かれることを期待する。 (一松 信)